

安全データシート

作成日 2018年11月08日
改定日 2019年7月30日

1 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	硬化剤 WA-001B
会社名	ワタナベ工業
住所	静岡県浜松市西区西山町1511-25
担当部門	技術部
電話番号	053-485-5217
FAX番号	053-485-5217

2 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分4
	急性毒性(経皮)	区分3
	急性毒性(吸入)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
	皮膚感受性	区分1
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	分類できない
	水生環境有害性(長期間)	分類できない

※上記で記載の無い項は、分類対象外または区分外または分類できない。

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

- ・危険
- ・飲み込むと有毒
- ・皮膚に接触すると有毒
- ・重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
- ・重篤な眼の損傷
- ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

注意書き

【安全対策】

- ・取扱後はよく洗うこと。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

【緊急措置】

- ・飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- ・皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- ・皮膚(または髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- ・吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・皮膚に付着した場合: 直ちに医師に連絡すること。
- ・眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼に入った場合: 直ちに医師に連絡すること。
- ・皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。

【保管】

【廃棄】

- ・施錠して保管すること。
- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学品名	ポリアミン類(液体)(腐食性のもの)
化審法番号	—
CAS番号	—

危険物有害成分

化学名又は一般名	含有量(%)	化審法番号	CAS番号	PRTR法(No.)	安衛法 通知物質
・変性脂肪族ポリアミン	>50			非該当	—

※上記記載の含有量は代表値ですので、規格を保証するものではありません。

4 応急措置

吸入した場合	・空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 ・多量の水と石鹼で洗うこと。 ・直ちに汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 ・直ちに医師に連絡すること。 ・皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
目に入った場合	・水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ・直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	・気分が悪い時は医師に連絡すること。 ・口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
応急措置をする者の保護	・保護手袋や保護眼鏡などの保護具を着用し、衣類や手につかないように注意を払うこと。

5 火災時の処置

消火剤	・小火災: 粉末消火剤、二酸化炭素、乾燥砂 ・大火災: 粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水
使ってはならない消火剤	・棒状注水
特有の有害性情報	・火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。 ・加熱により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法	・危険でなければ火災区域から容器を移動する。 ・移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 ・火災時、温度上昇により爆発するおそれがあるので、消火活動は、有効に行える十分な距離をとる。
消火を行う者の保護	・消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6 漏出時の処置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	・直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 ・関係者以外の立入りを禁止する。 ・作業者は適切な保護具(「ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 ・適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 ・風上に留まる。 ・低地から離れる。 ・密閉された場所は換気する。
環境に対する注意事項	・河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 ・環境中に放出してはならない。
回収、中和 封じ込め及び浄化の方法・機材 二次災害の防止策	・乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。 ・危険でなければ漏れを止める。 ・すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 ・排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	
【技術的対策】	・「ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
【局所排気・全体排気】	・「ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気・全体換気を行なう。
【安全取扱い注意事項】	・取扱後はよく洗うこと。 ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

<p>【接触回避】</p> <p>保管</p> <p>【技術的対策】</p> <p>【混触禁止物質】</p> <p>【保管条件】</p> <p>【容器梱包材料】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 ・「安定性及び反応性」を参照。 <ul style="list-style-type: none"> ・保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設定を設ける。 ・保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 ・保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 ・保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。 <ul style="list-style-type: none"> ・「安定性及び反応性」を参照。 <ul style="list-style-type: none"> ・消防法に定められた保管を行うこと。 ・容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 ・施錠して保管すること。 ・酸化剤・酸から離して保管する。 <ul style="list-style-type: none"> ・消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。 ・軟鋼、鋼、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、表面処理された鋼板あるいはステンレス容器に保管する。
--	--

8 暴露防止及び保護措置

<p>管理濃度</p> <p>許容濃度</p> <p>日本産衛学会 ACGIH(TLV-TWA)</p> <p>設備対策</p> <p>呼吸器の保護具</p> <p>手の保護具</p> <p>眼の保護具</p> <p>皮膚及び身体の保護具 衛生対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未設定 <ul style="list-style-type: none"> ・未設定 ・未設定 <ul style="list-style-type: none"> ・局所排気装置、洗顔、洗眼、手洗い場等を設ける。 ・適切な呼吸器保護具を着用すること。 ・ばく露の可能性のあるときは、有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器、又は酸素呼吸器を着用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・適切な保護手袋を着用すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・適切な眼の保護具を着用すること。 ・保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型) <ul style="list-style-type: none"> ・適切な顔面用の保護具、保護衣を着用すること。 ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 ・取扱い後はよく手を洗うこと。
--	---

9 物理的及び化学的性質

<p>外観</p> <p>臭い</p> <p>pH</p> <p>融点・凝固点</p> <p>沸点、初留点及び沸騰範囲</p> <p>引火点</p> <p>爆発範囲</p> <p>蒸気圧</p> <p>蒸気密度</p> <p>比重</p> <p>溶解度</p> <p>オクタノール／水分配係数</p> <p>自然発火温度</p> <p>分解温度</p> <p>粘度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・淡黄色透明液状 ・アミン・アンモニア臭 ・データなし ・データなし ・データなし ・ 144 °C (クリーブランド開放式) ・データなし ・データなし ・データなし ・ 1.01 (25°C) ・データなし ・データなし ・データなし ・データなし ・ 200 ~ 400 mPa・s (25°C)
--	---

10 安定性及び反応性

<p>安定性</p> <p>危険有害反応可能性 避けるべき条件</p> <p>混触危険物質</p> <p>危険有害な分解生成物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の取り扱い条件においては安定。 ・強酸やエポキシ樹脂と混合すると発熱を伴って激しく反応する。 ・高温加熱、混触危険物質との接触、火源。 ・強酸化性物質、強ルイス酸、強無機酸 ・アンモニア、アミン類、窒素酸化物、有機物
---	---

11 有害性情報

<p>急性毒性(経口)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飲み込むと有毒
-----------------	--

急性毒性(経皮)	・皮膚に接触すると有毒
急性毒性(吸入)	・データなし
皮膚腐食性/刺激性	・重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	・重篤な眼の損傷
呼吸器感受性	・データなし
皮膚感受性	・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖細胞変異原性	・データなし
発がん性	・データなし
生殖毒性	・データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	・データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	・データなし
吸引性呼吸器有害性	・データなし

12 環境影響情報

水生環境急性有害性	・データなし
水生環境慢性有害性	・データなし
オゾン層への有害性	・モントリオール議定書の附属書に列記された規制物質を0.1%以上の濃度で含まない。

13 廃棄上の注意

残余廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 ・都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 ・廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。
汚染容器及び包装	<ul style="list-style-type: none"> ・空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。 ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

14 輸送上の注意

国際規制	<ul style="list-style-type: none"> ・海上規制はIMDG(国際海上危険物規則)の規定に従う。 ・航空規制はIATA(国際航空運送協会危険物規則)の規定に従う。
国連分類	・Class 8
国連番号	・2735
品名(国連輸送名)	・アミン類又はポリアミン類(液体)(腐食性のもの)
容器等級	・III
国内規制	・「適用法令」を遵守すること。
特別の安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。 ・危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。 ・危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。 ・輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 ・食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 ・移送時にイエローカードの保持が必要。

15 適用法令

消防法	・危険物第4類 第3石油類 非水溶性液体 危険等級III
労働安全衛生法	
名称等を表示すべき有害物(法第57条の1、施行令第18条)	・変性脂肪族ポリアミン(労働省通達基発477号による表示)

16 その他

参考文献

- 1) 三省告示(厚生労働省、経済産業省、環境省GHS関係省庁連絡会議:NITE HP)
- 2) 日化協「緊急時応急措置指針、容器イエローカード(ラベル方式)」
- 3) 他社SDS

※ 記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性に関しては、いかなる保障をなすものではありません。また、注意事項は通常の手配を前提としたものであり、特殊な取り扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。